

高等学校基礎学力テスト(仮称)の問題に関する 収集・作成・精査・確定等の方針策定に向けた基本的考え方 (素案・たたき台)

本資料は、前回の高大接続システム改革会議で議論された高等学校基礎学力テスト(仮称)(以下「基礎学力テスト」)の位置付け等の更なる明確化等や実施スキームなどを前提に、来年度以降予定される基礎学力テストの問題についての収集・作成・精査・蓄積に関する方針策定に向けて、その基本的な考え方を整理した素案・たたき台である。

1. 基本的考え方

1. 基礎学力テストの位置付けの確認

- 基礎学力テストは、「義務教育段階を含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得」と「それによる高校生の学習意欲の喚起」を推進するための施策の一環として、社会で自立するために必要な基礎学力について、各学校がそれぞれの実情を踏まえて目標を設定し、取組が進められるよう、「定着度合いの目安」を把握する仕組みとして構築する。
- その導入に当たっては、高校生の多様性を踏まえ、同一問題・一斉実施ではなく、複数レベルの問題から学校が選んで受検し、生徒の基礎学力の定着度合いに応じた目標準拠型の評価を段階表示で結果提供することや学校行事等を考慮しながら実施時期を柔軟に設定できる仕組みとする。
- これにより、
 - ・ 生徒が基礎学力の習得と意欲の向上を図る
 - ・ 学校が、全国的な視点から自校の生徒の基礎学力の定着度合いを把握し、指導を充実する
 - ・ 設置者が、各校のデータに基づき、高校の魅力づくりや質の確保のための体制強化や学校支援に取り組むことを通じて、高校教育の質の向上におけるPDCAサイクルを構築する。

2. 作問に関する基本的な仕組み (※参考資料1、2参照)

- 上記位置付けを前提に、基礎学力テストの作問の仕組みについては、同一問題・一斉実施といった従来型のテストではなく、CBT方式での実施を前提としたテストとして、実施主体において、以下に掲げる「収集・作成・精査・蓄積」の作業を行い、アイテムバンクに蓄積した大量の問題群から問題のセットを構築し、学校が複数レベルの中から適切なものを選んで受検できる仕組みを目指す。

《収集》

全国の教育委員会・高校・関係団体等に対し、高校の定期考査、教委・校長会・学校が実施する実力テスト等の問題の提供を依頼するとともに、民間の資格・検定試験等からの問題提供の協力依頼を検討するなど、各方面から全国的に既存問題の収集を行う。

《作成》

既存問題の収集のほか、高校・教委、民間事業者等の有識者を中心に構成された検討組織において、①良質ないくつかの出題パターンを基に、数値・語彙等を変えて類似問題を作成、②生徒の学習意欲や学校での指導へのメッセージ性の高い問題を新たに作成する。

《精査》

上記の通り収集・作成された問題に関し、その内容や難易度等を確認し、試行等を通じて得られた実証データを加味しながら、必要に応じて問題を修正する。

《蓄積》

精査された問題については、実施主体のアイテムバンクに登録し、高校等が希望する受検科目や実施時期等にあわせて、問題のセットを提供する。

3. 定着度合いを把握するための評価の規準の整備

- 基礎学力テストにおいて目標準拠型の評価を段階表示で結果提供を行えるよう、問題の正誤状況等に応じて生徒の基礎学力の定着度合いを把握できるようにするための評価の規準の考え方について、試行等を通じて検討・精査を進めることを目指す。

II. 具体的な事項

1. 出題の方向性（※別紙参照）

- 学習指導要領に定められている指導すべき内容が「どの程度身に付いているか」という観点から、基礎的な「知識・技能」を問うことを中心としつつ、「思考力・判断力・表現力等」を問える問題をバランス良く取り入れながら、基礎学力の定着度合いを適切に把握することを目指す。

(参考) 全国学力・学習状況調査における調査問題作成の基本理念

主として「知識」に関する問題	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
主として「活用」に関する問題	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力に関わる内容

- 併せて、正答から現在の定着度合いを測定するだけでなく、誤答から受検生にとって必要な改善事項が確認できることを目指す。
- 高校生の多様性を踏まえ、幅広く基礎学力の定着度合いを把握できる仕組みとなるよう、例えば、義務教育段階の学習内容で構成される問題のセット、高等学校の学習内容で構成される問題のセット、その両方を取り入れて構成される問題のセットなど、複数レベルの問題のセットを作成することを目指す。

- 各教科・科目の特性を踏まえながら、生徒の学習意欲を高める問題やこれまでの試験問題の課題を克服できるような問題を取り入れる。
- レベルに応じて適切な問題文の構成や分量となるよう留意するとともに、問題の素材として、受検者が日常的に目にする素材(例えば、新聞、広告等の商品説明、取扱説明書、行政文書など)を扱うことに配慮する。
- 特に、高校生が基礎学力テストに取り組むことで、自らの基礎学力の定着度合いの確認を通じて興味・関心を引き出し、自ら「学びの質の向上」に取り組めるようにすることが可能となるよう、下記に掲げる活用方法例に対応できるような出題を行うことに配慮する

(参考) 高校生にとっての活用方法のイメージ例 (※参考資料3参照)

- ・ テストの結果から自らの強みと弱みを理解させ、教員の指導と相まって、効果的に学習に取り組ませるために活用する
- ・ 社会で自立するために必要な基礎学力とはどういうものかを認識させ、教員の指導と相まって、学習への動機づけを行うために活用する
- ・ 義務教育段階の学び直しから学習の成果を実感させ、達成感を高めさせるために活用する

2. 出題の方法等

(出題教科・科目)

平成31年度導入当初は国語、数学、英語とし、出題範囲は、現行の学習指導要領において全ての生徒が共通に履修する科目である「国語総合」「数学」「コミュニケーション英語」を上限とし、義務教育段階の内容も含める。

(試験時間)

学校の正規の教育課程の中でも対応できるようにするため、各科目50～60分程度を想定し、出題数は、教科・科目の特性を踏まえつつ、数十題程度の範囲を目安とし、測定しようとする内容等に照らして過大な出題数とならないよう留意する。

(出題方法)

教科・科目の特性やIRT導入の方向性を踏まえ、出題方法は、①選択式(正誤式、多肢択一式、正答が複数ある問題などを想定)とともに、②短答式(記述)、③設問が求める条件に沿って数十字(語)程度で解答を記述する問題、④英語における4技能評価(「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」)などの導入を目指す。

その際、記述式や英語の4技能評価については、その採点方法や人員の確保などの課題を検証しながら、導入の仕方について更に検討を行う。

(問題の分類)

問題作成の目安とする観点や、生徒や学校に対して学習改善・指導改善のために分野別の結果を示すという観点から、学習指導要領の項目別(大区分・小区分)に問題を分類する。

【別紙】高等学校基礎学力テスト（仮称）の位置付けや目的等を踏まえた出題の方向性（たたき台）

【出題のねらい】

○「社会で自立し、社会に参画・貢献していくために必要な力」として、様々な場面で生かされることを想定し、出題することを目指す。

＜場面の一例（イメージ）＞

（国語）

- ・ ニュースや演説、社会で用いられる文書等から、話題等の要点を的確に捉えて書き出したり、概要をまとめたりすることができるか。
- ・ 会議や打合せに向けて、必要となる情報を収集して提案する内容を考え、会議等の目的や状況を踏まえて表現を工夫したり、根拠をもって説明したりすることができるか。 など

（数学）

- ・ 商品の売り上げ等に関するグラフや箱ひげ図から、情報を読み取ることができるか。
- ・ 利率やコスト等の条件を比較し、将来的な見通しを立てることができるか。 など

（英語）

- ・ Eメールや手紙などにおいて、求められている情報を適切に書いて伝えることができるか。
- ・ 英語の掲示や取扱い説明書等から、必要とする情報を取り出し、目的を達成することができるか。 など

（注）上記は、あくまで問うている力が生かされる場面の一例であり、その場面設定で出題されるとは限らない。

【出題の工夫】

○「生徒の学習意欲を高める」ために、場面設定や取り扱う題材について様々な工夫を行うことを目指す。

＜工夫の一例（イメージ）＞

- ・ 日常的に触れる機会の多い素材（文書やシチュエーション）を問題に取り入れる。
- ・ 進学後の学修や就職後の社会生活の場面を意識させる問題設定を行う。

（注）C B T方式で行う場合、視覚に訴えかける出題をすることで、興味・関心を引き起こす工夫等も考えられる。

【学習指導要領との関連】

○ 学習指導要領に定められている指導すべき内容との関連を意識して出題する。

（注）学習指導要領の項目（大区分・小区分）との関連を想定。

【指導内容や指導・評価方法へのメッセージ】

○出題を通じて、高等学校において様々な指導の工夫に繋げていくことを目指す。

＜一例（イメージ）＞

（国語） 複数の文章を多角的な視点から解釈して自分の考えを形成し、根拠に基づいて論述したり議論したりする授業。

（数学） 実生活と結びついた設定において、数学的手法を用いて意思決定をさせる授業。

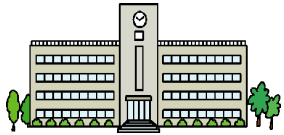
（英語） 聞いたり読んだりしたことに基づいて、生徒同士で双方向的なやりとりをして、4技能を統合的に活用させる授業。

※上記の観点を押さえながら出題する問題を作成・収集・蓄積することで、高等学校基礎学力テスト（仮称）が、高等学校における指導に活用できるものとなることを目指す。

「高等学校基礎学力テスト(仮称)」の全体イメージ (たたき台)

参考

高校等での蓄積された 既存資源の活用



高校教育の試験問題

- ▶ 高校の定期考査、教委・校長会・学校が実施する実力テストの問題 など

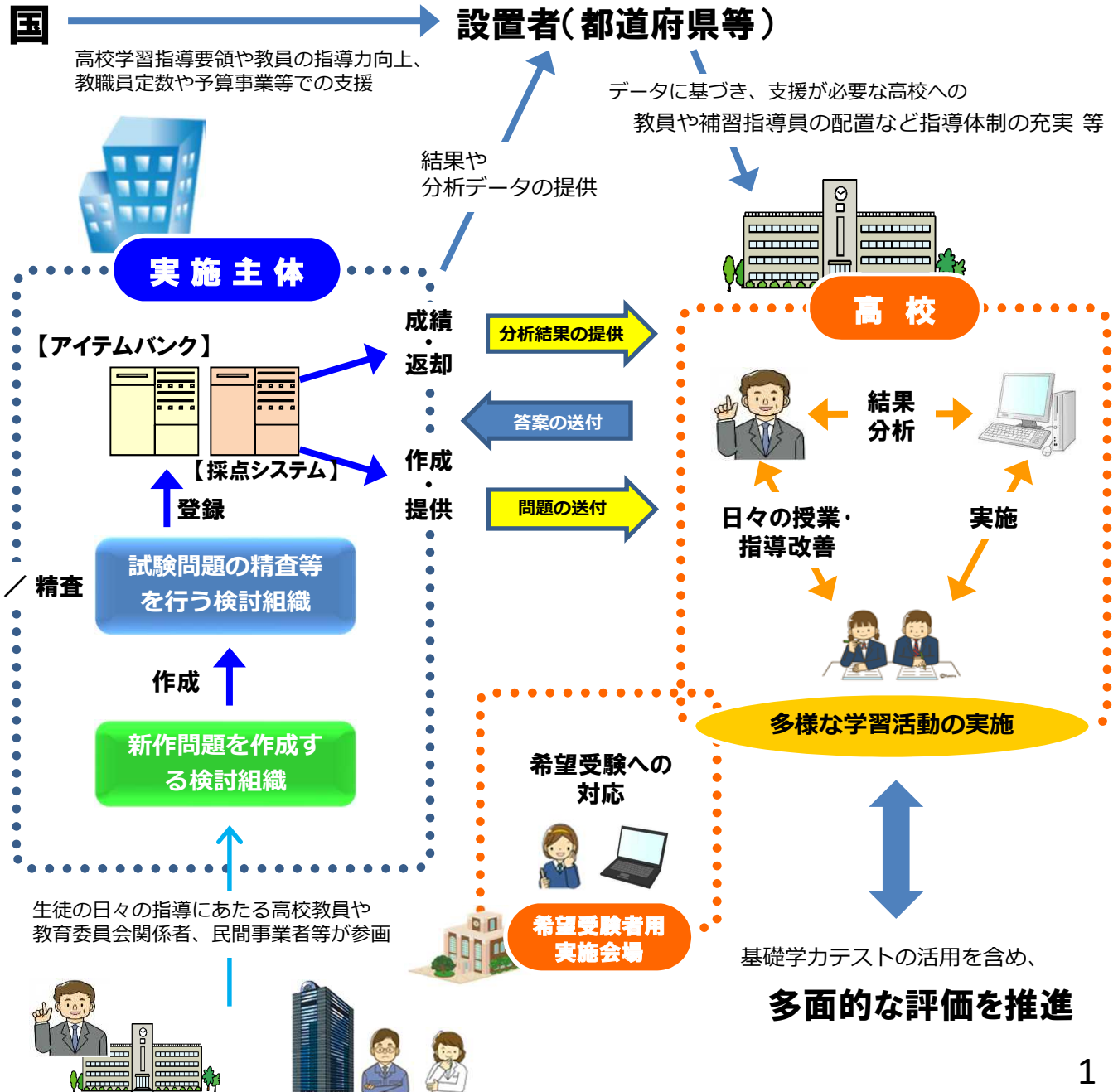
義務教育の試験問題

- ▶ 県教委が実施する高校入試の問題 など

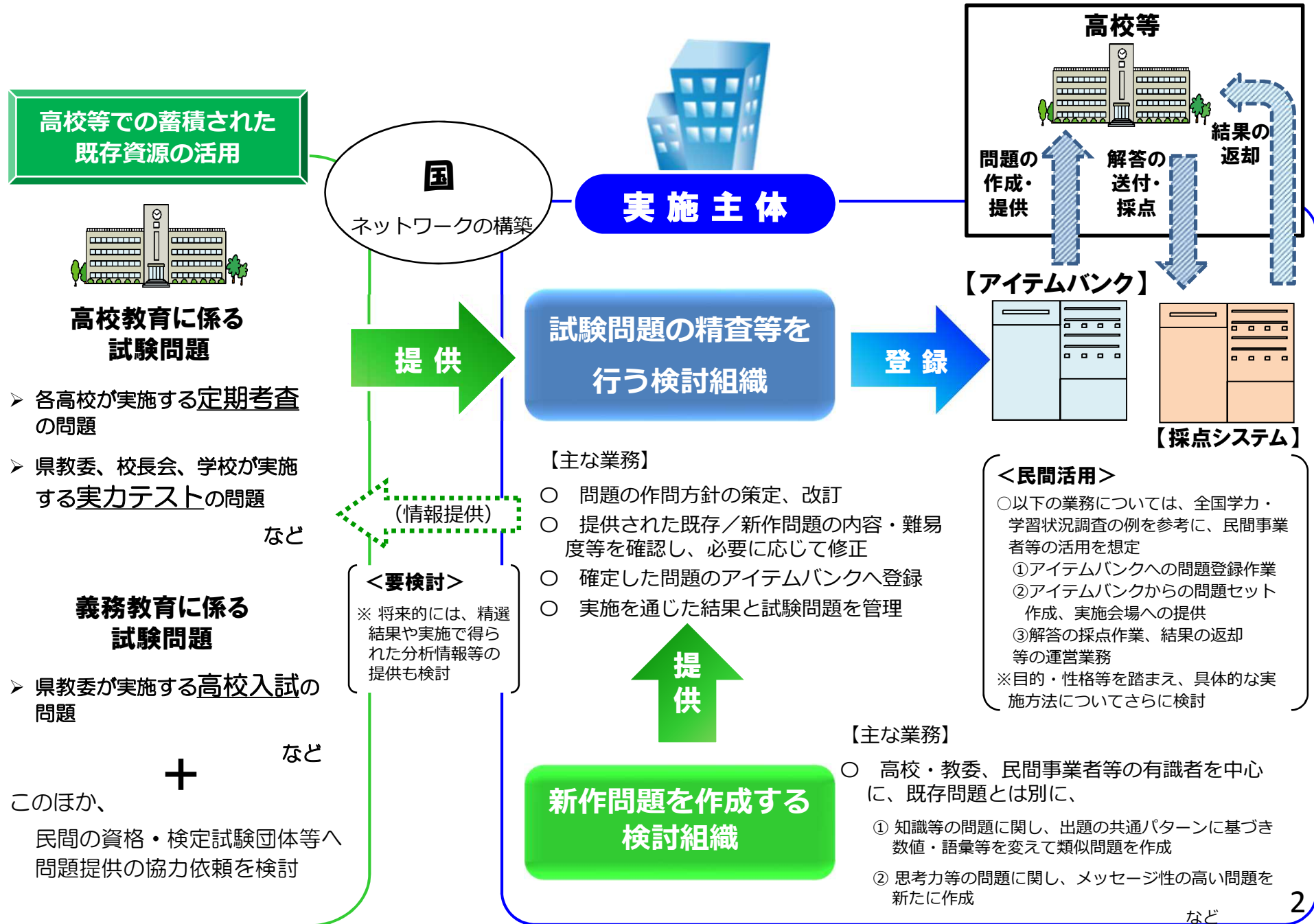
▶ このほか、

民間の資格・検定試験等にある問題提供の協力依頼を検討

学校・教委・関係団体から提供



「高等学校基礎学力テスト(仮称)」の試験問題の作成・収集等の仕組（たたき台）



基礎学力の定着・向上のための高等学校基礎学力テスト(仮称)の活用方法イメージ(たたき台)

設置者

- 基礎学力定着に向けた「**基本方針や施策の企画・立案**」
- 教員配置や予算など「**学校支援の実施**」

学校

- 基礎学力の習得を促し、学習意欲を喚起するための「**指導の工夫・充実**」

高校生

- 指導の工夫等により、生徒の興味・関心を引き出し、生徒自ら「**学びの質の向上**」に取り組めるようにする。

活用方法のイメージ例

- 大枠の教育方針を策定していく際に、**教育目標設定の目安**として活用。
- 教員定数配分や補習指導員の配置、生徒の学習状況等を踏まえた**人材配置**のための判断材料の一つとして活用。
- 基礎学力向上に取り組む重点校の指定**や**重点的に取り組む課題を設定**するためのデータを取得するために活用。

など

活用方法のイメージ例

- 学校の**教育目標の達成指標**として活用。
- 多様な入試を経て入学した生徒について、その後の**基礎学力の習得度合い**やその**伸び**を測定するために活用。
- 生徒の**つまづき箇所**を分析し、**弱点克服**に向けて**個別に学習指導や支援**を行うために活用。
- 学校の実態を基に、**加配や補習指導員を活用した少人数・習熟度別授業**行ったり、**学校設定科目の内容を設定**したりするなど教育課程編成の工夫を行うために活用。

など

活用方法のイメージ例

- テストの結果から**自らの強みと弱みを理解**させ、教員の指導と相まって、**効果的に学習に取り組ませる**ために活用。
- 社会で自立するために必要な基礎学力とはどういうものか**を認識させ、教員の指導と相まって、**学習への動機づけ**を行うために活用。
- 義務教育段階の**学び直しから学習の成果を実感**させ、**達成感を高め**させるために活用。

など

基礎学力の定着・向上のための支援

国の取組

共同システムの基盤の構築
 ・問題作成方針の策定
 ・問題作成体制の構築

設置者、学校等への支援
 ・多様なデータの提供
 ・取組の好事例の提供
 ・指導体制の充実支援
 ・教員研修の実施・支援

データに基づく国の教育施策の検証改善

各主体の判断で、様々な活用目的に応じた利用

各主体が利用目的に応じて共同で利用できる高等学校基礎学力テスト(仮称)

- ・学習指導要領に対応し、社会で自立するために必要な基礎学力を問う問題を提供。
- ・各設置者、学校、生徒の主体的な取り組みを支援する情報を提供。
例) 学習内容の習得度を示すデータ、分野ごとの強み弱みを示すデータ、結果の伸びを示すデータ 等
 ※学習習慣等に関する調査を併せて行うことで、より詳細な分析に資するデータ提供も可能
- ・出題内容と学校の実態に対応した、授業・指導等の工夫やアイデア例を提供。
- ・高校教員による作問や分析等への参画を通して、問題作成手法等の研修の場を提供。